

九州保健福祉大学薬学部臨床薬学系講座は、臨床製剤学、臨床薬学第一、臨床薬学第二講座からなり、それぞれが模擬病院薬局、模擬調剤薬局、ベッドサイドを担当している。その共通した教育目標は「臨床能力を有する実践型の薬剤師教育」。特にベッドサイド実習では、バイタルサインの読める薬剤師教育に力を注いできている。これらの取り組みは、2006～08年度文部科学省「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(医療人GP)に採択された。

九州保健福祉大学薬学部
臨床薬学第二講座

徳永 仁、高村 徳人

ベッドサイド実習では、薬学系万能型実習人形を用いた様々な投与ルートの確認、シミュレータを使用した注射・採血体験、生体シミュレータを用いたバイタルサインの確認、救命救急処置法および薬学的診断法などの薬学的臨床技術習得に主眼を置いている。

生体シミュレータとしては、ACLS(二次救命救急)トレーナー、フィジカルアセスメントモデルおよび高機能患者シミュレータを使用している。また、市販されている様々なバイタルサイン関連機器(水銀・電子血圧計、ピークフローメータなど)も使用し、実際に使用できるように指導している。

さらに、生体シミュレータを用いて、心室細動(VF)を再現できる体験型の実習を行うことができるようになった。具体的には、VFの発生からベースラインへ回復するまで、すなわちVFによる無脈、AEDの実施



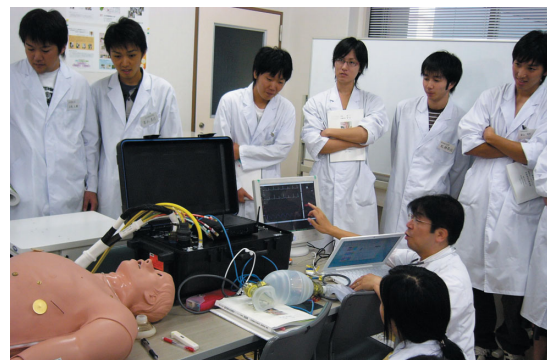
薬学系万能型人形を使用した様々な投与ルートの確認(上は経管栄養法、下は坐薬の投与)

バイタルサイン読める「薬剤師教育」展開 薬物療法の効果・副作用の確認を目的に

いる。このように、バイタルサインの確認など薬学的臨床技術を展開することで、患者の病態変化の確認、薬効の評価や副作用の確認、さらに薬学的診断法に基づく安全かつ有効な攻めの薬物投与法が可能になり、医療チームの一員として、薬剤師の職能を最大限に発揮



フィジカルアセスメントモデルを使用したバイタルサインチェックのトレーニング風景



生体シミュレータを使用した心室細動からの薬物を使用した蘇生体験

による洞調律の出現、徐脈、アドレナリン投与による頻脈、SpO₂(動脈血酸素飽和度)低下、人工呼吸による回復などを、バイタルサインとモニター画面上に表示された警告やアラームにより、触覚・視覚・聴覚から患者の容態変化を理解できるようにした。

実習最後は、蛋白結合能の変化とその要因を判断するための、薬学的分布診断法の原理の解説と実施を行って

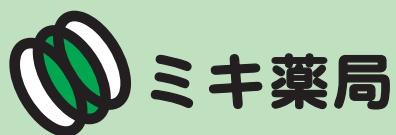
できるアドバンスト的な実習内容となっている。

現在「薬剤師によるバイタルサインチェックが薬効の評価や副作用の確認に重要」という認識が芽生えつつある。つまり、「薬剤師は患者に触れてはならない」という誤認識が少なくなりつつあるように思える。

実際、医療人にとってバイタルサインチェックは基本的な行為であり、これらの理解・行為は共通言語的なものである。日本病院薬剤師会(堀内龍也会長)は薬科大学に対して、臨床教育をはじめ新たな薬剤師業務につながる教育を要望する一方で、現場で働く薬剤師の生涯教育の充実にも力を入れる必要があると述べている。

また、厚生労働省がまとめた「安心と希望の医療確保ビジョン」の中で、医師不足への対応が課題として指摘され、ビジョンの具体化に関する検討会の中期とりまとめでも、医師でなくてもできることを他のコメディカルが分担するというスキルミックスが検討テーマにあげられている。

そのために、われわれはスキルミックスを視野に入れたベッドサイド実習、つまり「薬物の効果・副作用の確認を目的としたバイタルサインの読める薬剤師教育の展開」を始めている。将来は本教授法の実践によって、基本的な技術を身につけた薬剤師が、医療チームの一員として新たな役割を担っていくことを期待する。



経験と実績を積み重ねて30年
私たちは歩み続けています。



人と人とのコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹(ミキ)から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。

株式会社 メディカルファーマシー

採用に関するお問い合わせは

人材開発部 saiyou@miki.ne.jp

<http://www.miki.ne.jp>

〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011

設立/昭和54年2月 資本金/5,000万円 売上高/114億円 従業員数/245名(薬剤師171名)

事業所/東京都17店舗、神奈川県5店舗、千葉県・埼玉県・栃木県・山梨県各1店舗